

名古屋城調査研究センター 年報 1
令和元年度

2020

名古屋城調査研究センター

目次

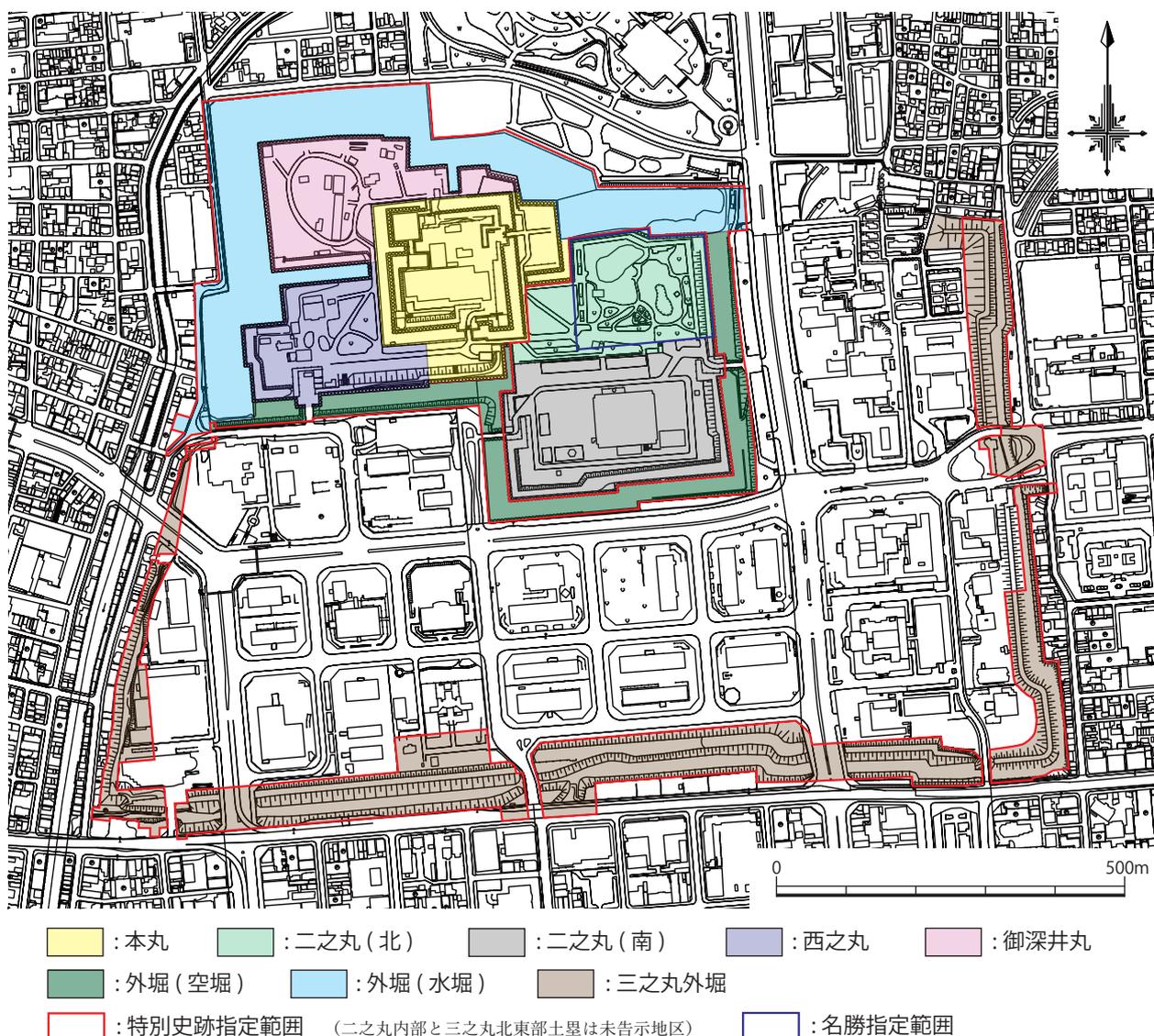
I 調査研究事業	1
1. 発掘・試掘調査等	1
(1) 本丸内堀の調査 (2) 二之丸庭園第7次発掘調査 (3) 二之丸地区整備に伴う試掘調査 (4) 本丸表二之門の試掘調査 (5) 本丸搦手馬出の石垣調査	
2. 石垣カルテの作成	8
3. 工事立会	9
(1) 調査研究センター仮設事務所の配管設置に伴う立会 (2) 二之丸庭園修復整備工事に伴う立会 (3) 展示収蔵施設の外構工事に伴う立会	
4. 文献調査	11
5. デジタル化事業	14
(1) 名古屋城史跡等管理システム (2) 名古屋城関係資料データベース	
II 資料管理	16
1. 所蔵資料・受託資料	16
(1) 所蔵資料の概要 (2) 令和元年度受贈資料 (3) 受託資料 (4) 令和元年度受贈・購入図書	
2. 資料の修理	18
3. 資料の利用	19
(1) 資料貸出 (2) 写真貸出 (3) 熟覧	
III 教育普及・展示事業	20
1. 刊行物	20
(1) 名古屋城調査研究センター研究紀要 第1号 (2) 名古屋城調査研究センターだより 第1号 (3) 名勝名古屋城二之丸庭園発掘調査報告書(第4次～第6次)	
2. レファレンス	21
3. 現地説明会	21
(1) 搦手馬出石垣 (2) 二之丸庭園第7次発掘調査	
4. 講師派遣	21
5. 展示事業	22
(1) 刀剣展一尾張に伝わる刀剣一 (2) 重要文化財日本丸御殿障壁画の本丸御殿内展示	
IV 組織と職員	23
1. 組織	23
2. 職員	23
V 参考資料	24
1. 令和元年度の名古屋城の活動	24
(1) 催事等 (2) 特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議	
2. 名古屋城入場者数の推移	25

I 調査研究事業

名古屋城調査研究センターは、考古学・歴史学・美術史などの分野を横断した総合的な調査研究を推進し、特別史跡名古屋城跡の保存・活用を進めるとともに、その調査研究成果を広く情報発信していくことを目的に令和元年4月に設立された。

令和元年度は名古屋城天守台石垣の研究を共通のテーマとして取り組んだ。このテーマに関連して、考古学分野では本丸石垣の調査や石垣カルテの作成に取り組み、歴史学分野では江戸時代・宝暦2～5年（1752～55）に実施された天守台石垣の積み直し工事に関する歴史史料の収集と分析に取り組んだ。その成果は特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議にて報告するとともに、『名古屋城調査研究センター研究紀要』第1号に発表した。

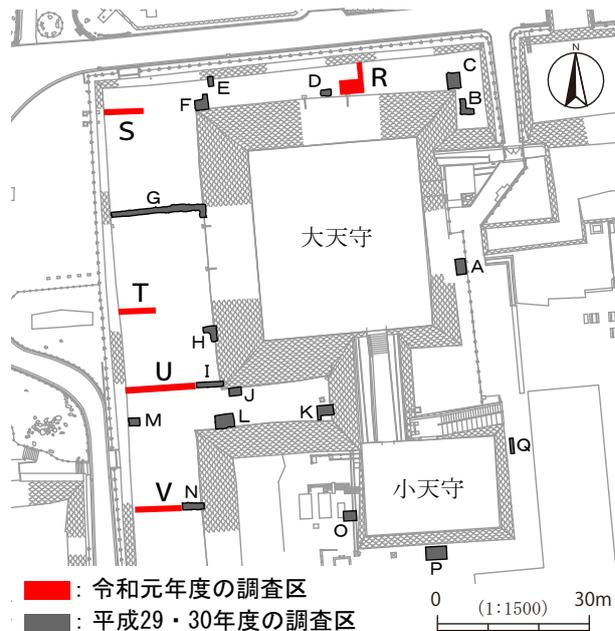
1 発掘・試掘調査等



名古屋城の地区区分

石垣の変状、築城期以降の改変の状況が把握できた。

堀底の堆積状況については、以前より、戦後すぐまたは現天守閣再建時の工事に伴う廃棄土坑が堀底に点在しており石垣を不安定にしているのではないかと有識者から懸念されていた。今回の調査で確認された廃棄土坑は大規模なものではなく、局所的に穴を掘って廃棄されていた。石垣の際には廃棄土坑がなかったことなどから、石垣の安定性に影響を与えている可能性は低いと考えられる。



本丸内堀の調査区の位置



U・T 調査区（南東から）



S 区調査風景（東から）

(2) 二之丸庭園第7次発掘調査

調査期間 令和元年（2019）12月12日～12月24日、令和2年（2020）2月12日～3月27日

調査地区 二之丸（北）地区 二之丸庭園（南池・風信・外縁北）

調査面積 88.25㎡

調査目的 二之丸庭園整備に伴う調査

調査担当 花木ゆき乃・木村有作・佐藤公保

調査概要

平成25年度（2013～14）より実施している二之丸庭園の修復整備に伴う事前の発掘調査であり、令和元年度は南池・風信・外縁北の調査を行った。風信の調査は、茶亭「風信」の位置を特定するために行った。その結果、風信があったと推定される築山の東部および南部は近代以降の改変を受けていることが明らかとなった。築山頂部では、茶亭と推定される建物基礎の根固めの可能性がある土坑を確認した。

外縁北の調査は、南蛮練堀の基礎および二之丸庭園外縁の遺構の確認を目的に行った。南蛮練堀東



- : 令和元年度の発掘調査区 □ : 昭和 49・51・52 年度の発掘調査区 □ : 名勝指定範囲
- : 平成 25～30 年度の発掘調査区 □ : 二之丸庭園区割り (南池・風信・外縁北)

二之丸庭園の調査区の位置

端のトレンチでは円礫と粘土からなる基礎を確認したが、西端のトレンチでは円礫はみられなかった。園路側の塀際では、土塁状の高まりや近代・近世の路面である硬化面を数面確認し、一部は砂利敷きであることを確認した。

南池の調査は、池の護岸の形状の確認と池底の確認を目的に行った。池の北斜面に設置した調査区の北側では、近世の遺構面は削平されており、護岸の形状は確認できなかった。南側では近世の石列や三和土で固められた飛石を検出した。池の中のトレンチでは、厚さ 0.1 m ほどの砂利層の下から三和土を確認した。漏水防止のために池底に三和土が貼られたと推定される。



南蛮練塀基礎 (南から)



南池北斜面 (北から)

(3) 二之丸地区整備に伴う試掘調査

調査期間 令和元年（2019）9月6日～9月20日

調査地区 二之丸（南）地区 特別史跡未告示地区

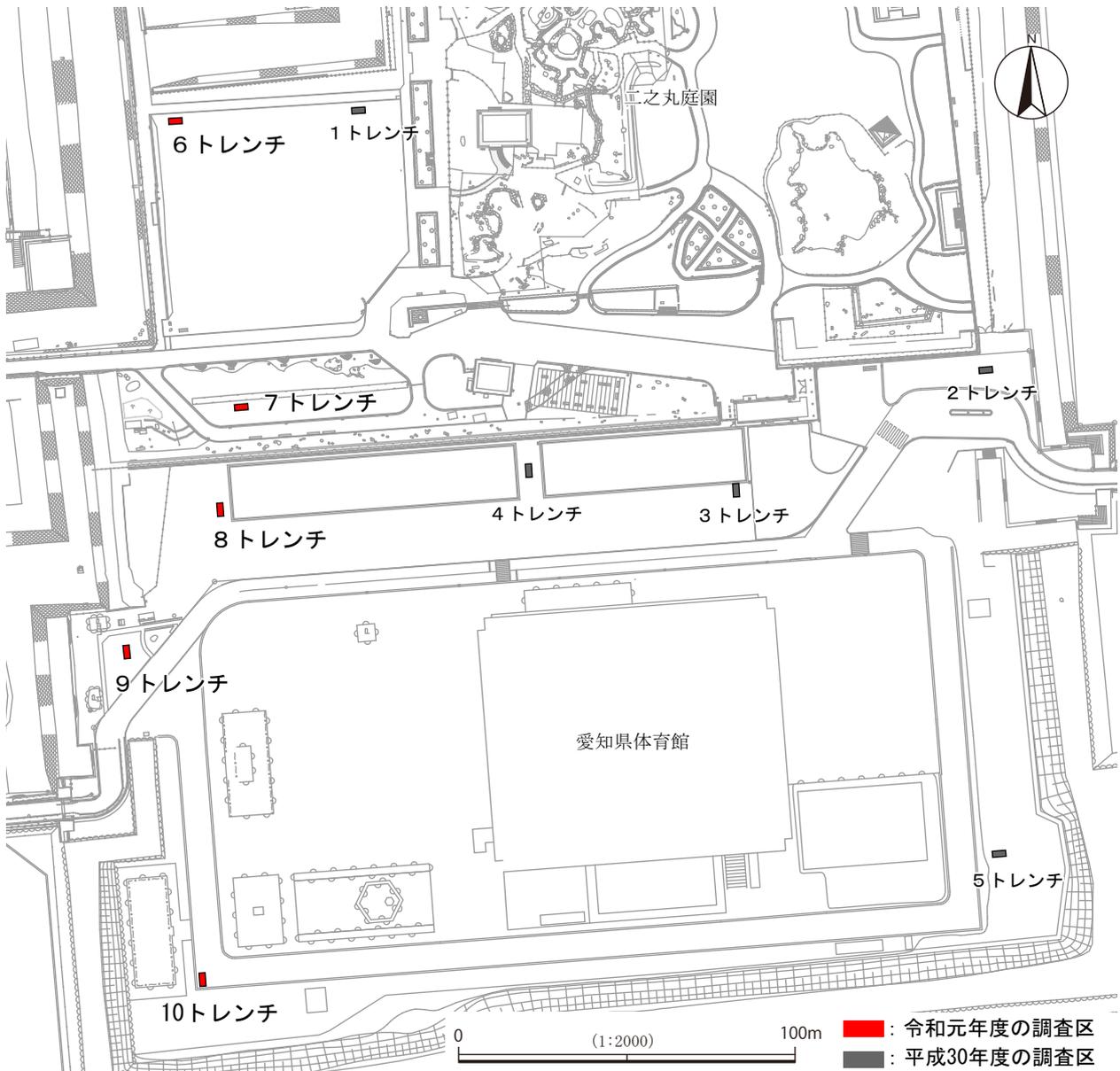
調査面積 40㎡（4×2mのトレンチ、5カ所）

調査目的 名古屋城二之丸南部整備のための試掘調査

調査担当 花木ゆき乃・木村有作・二橋慶太郎・佐藤公保・古田成美

調査概要

特別史跡未告示地区の近世の遺構の状態を確認するために、平成30年度（2018～19）に引き続き、試掘調査を実施した。調査区は二之丸地区北部と南部の西側に五つのトレンチ（6～10トレンチ）を設定した。



6トレンチでは、瓦やレンガなどの近代遺物を含む整地層の中から巨石が出土した。近世と思われる遺構はなく、包含層も残存していなかった。

7トレンチでは、約 1.8 m の現代層を除去すると陸軍の施設に関わる配管（常滑の角形半径土管・
鋳鉄管）を検出した。その下の層からは、中世遺物（山茶碗）を包含する層を確認しており、近世の
遺構面は確認できなかった。

8トレンチ中央において、南北に走る近代の溝を検出した。この溝は側面が花崗岩の切石と漆喰の
壁から形成される。溝の東側では、近代の遺構の直下に大窯期（15～16世紀）の皿の小片が整地層
から出土している。この層は築城に伴う整地層または中世の整地層の可能性はある。近世の遺構は確
認できなかった。

9トレンチでは、地表下約 1m まではレンガ、タイル等を含む近代以降の整地層が堆積しており、
近世の遺構面は確認できなかった。

10トレンチでは、近代以降の造作と推定される花崗岩の切石を伴う溝を検出した。この溝の南では
砂岩質の自然礫または割り石からなる暗渠を確認した。暗渠は、近世の瓦の廃棄土坑を切って作られ
ていることから近世以降に造作されたと考えられる。



7トレンチ 角形半径土管（南から）



8トレンチ 石列・溝（北から）



10トレンチ北側 溝（西から）



10トレンチ南側 暗渠（南から）

（4）本丸表二之門の試掘調査

調査期間 令和元年（2019）11月11日～11月14日

調査地区 本丸地区 表二之門（旧称 本丸南二之門）

調査面積 2㎡ (1m×1mのトレンチ、2カ所)

調査目的 耐震調査に伴う試掘調査

調査担当 木村有作・古田成美

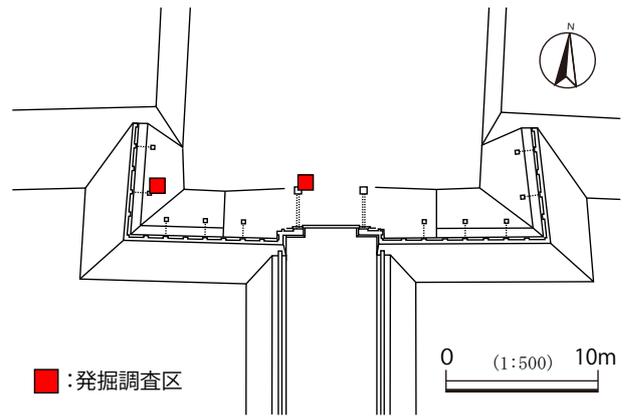
調査概要

本丸表二之門（旧称：本丸南二之門）は、現在名古屋城内に3棟ある重要文化財の高麗門の一つである。経年による劣化が進んでいるため、今後の保存・活用を図るにあたり控柱の基礎状況を発掘調査により把握し、耐震調査を実施する

必要が生じた。調査区は、門小屋根と脇塀の控柱の位置に1m×1mのトレンチを1箇所ずつ設定した。なお、門の控柱については、下部が石製になっており、近代以降に改修された可能性が高い。

門の控柱部分のトレンチでは、地表から約0.5mの深さでコンクリートの根巻部分の上端を検出した。根巻部分のコンクリートは、柱面からおよそ0.4m張り出していることから1辺1.2mほどの塊となっていると推定される。

土塀西側部分の控柱のトレンチでは、地表面から約0.9mの深さで、柱下端と推定される0.05～0.1m大の小円礫の集積を確認した。



■：発掘調査区
本丸表二之門試掘調査区の位置



門小屋根控柱の掘削状況（北東から）



脇塀控柱の掘削状況（東から）

（5）本丸搦手馬出の石垣調査

調査期間 令和元年（2019）12月21日～令和2年3月31日

調査地区 本丸地区 搦手馬出

調査目的 本丸搦手馬出周辺石垣解体修復工事に伴う調査

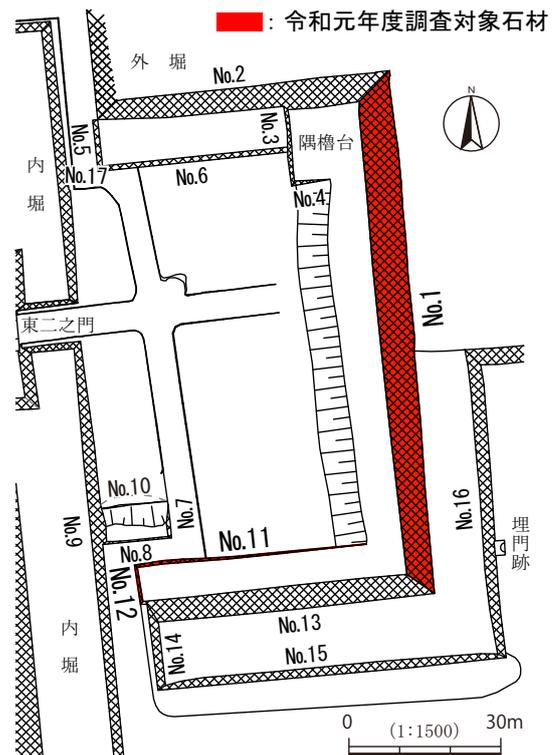
調査担当 木村有作・西本菜由

調査概要

本丸搦手馬出周辺では、石垣の下部が大きく孕み出し、崩落の危険性があったため、平成15年度（2003～04）から継続して石垣の解体修理事業を実施している。今年度は未解体石垣の石質種別分布図の作成を行った。調査の対象とした石垣はNo.1（東面）石垣の未調査石材及び東面で平成22年度（2010～11）に実施したトレンチ調査により確認された土中部分の石材、元御春屋門枳形部の石垣で

ある No.11・No.12 石垣である。このうち、No.11 石垣については立面図が一部において作成されていなかったため、図面作成範囲のみの調査とした。

調査の結果、以前からの調査でも確認されているようにそれぞれの石垣において石質種別に傾向があることが確認できた。No.1 石垣の未解体部分については大部分が花崗閃緑岩であり、岩崎山産花崗岩が確認されていないことから、築城時の状態を保っていると考えられる。No.11 及び No.12 石垣については花崗斑岩が半数程度を占めるが、石垣上部に少量の岩崎山産花崗岩や熊野酸性岩類の花崗斑岩が確認されている。この傾向は天和期（1681～84）に修復された石垣でみられることから、上部については同時期に修復した可能性が高い。



搦手馬出の調査対象石垣の位置

2 石垣カルテの作成

現地調査期間 令和 2 年（2020）3 月 13 日
～ 3 月 19 日

石垣カルテ作成面積 5,398㎡（全 12 面）

オルソ画像作成面積 3,452㎡（全 12 面）

調査担当 二橋慶太郎・木村有作

調査概要

城内の石垣の現況を確認するため、平成 29 年度（2017～18）より石垣カルテを作成している。

各面石垣の基本情報に加え、個々石材の割れや

欠けなどの破損状況、修復状況やその履歴、孕みや歪みなど面全体の変状等を記入している。令和元年度（2019～20）は、本丸内堀・西北隅櫓（「清須櫓」）の石垣カルテ作成、二之丸地区・外堀南側の石垣のオルソ画像撮影を行った。

調査に先駆け、名古屋城全体整備検討会議石垣部会から、従来のカルテ項目や記載方法等について多くの指導をいただいた。その上で、指摘のあった事項を検討し、今回の調査カルテに反映した。

今回の調査範囲内では、喫緊に崩落の恐れのある石垣は見られなかったものの、各所において隅角石の表面剥離、間詰石の抜け、石垣の孕み出し等が散見され、今後も注意して観察を続ける必要がある。また、各石垣に使用された石材については、それぞれに特徴が見られ、特に東南隅櫓下の隅角における竜山石（火山碎屑岩）の多用、本丸東門北側石垣の左半分における斑レイ岩の集中は注目される。



石垣カルテ作成の様子

3 工事立会

(1) 調査研究センター仮設事務所の配管設置に伴う立会

工事期間 令和元年（2019）12月16日～令和2年2月29日

工事地区 御深井丸地区

事業面積 7.8㎡

工事原因 排水管等設置工事

立会担当 二橋慶太郎

立会結果

仮設事務所に引き込む排水管等埋設のため、アスファルト舗装を取り除き、掘削を行った。掘削面にて明確な遺構がないことを確認した。



配管工事の掘削状況（北から）



掘削の完了（北から）

(2) 二之丸庭園修復整備工事に伴う立会

工事期間 令和元年（2019）10月4日～令和2年3月31日

工事地区 二之丸（北）地区 二之丸庭園北園池

事業面積 107㎡

工事原因 名勝名古屋城二之丸庭園修復整備工事に伴う確認調査

立会担当 花木ゆき乃・木村有作・古田成美・佐藤公保

立会結果

二之丸庭園では平成24年度（2012～13）から修復整備工事を実施しており、令和元年（2019～20）度には北園池の中島・石組・橋・沢飛の堆積土の除去、石組保存修理、景石の据え直しを行った。

北園池東部〔平成28年度（2016～17）第4次発掘調査地点〕で堆積土の除去を行い、既発掘調査の層位の確認・指示と未調査域を掘削しないように指示し、掘削状況を確認した。石組保存修理では、石材強化処理作業を行い、景石に影響がないことを確認した。樹木の影響で池側に傾倒し落下の恐れがあった景石については据え直しを行い、周辺遺構に影響がないことを確認した。



石組の保存修理



景石の据え直し

(3) 展示収蔵施設の外構工事に伴う立会

工事期間 令和2年(2020)1月9日～3月31日

工事地区 西之丸地区 米蔵構

工事原因 展示収蔵施設外構工事

立会担当 木村有作・二橋慶太郎

立会結果

平成30年度(2018～19)に西之丸地区において江戸時代の米蔵を外観モデルとした展示収蔵施設の本体建物が竣工した。令和元年度は展示収蔵施設の運用・公開に必要な搬入路の設置や外構整備が実施され、それに伴い立会を実施した。

調査の内容は、①バックヤード管理道路予定敷地周辺の旧庭景石の撤去工事、②外構雨水排水等の排水管の撤去及び新設工事、③雨水排水用柵の新設工事、④搬入搬出路乗り入れ部分の設置工事、⑤米蔵の表面展示工事に伴う立会など多岐にわたった。

上記①の工事では、景石として使われていた石材を記録するとともに、周辺の地下状況を確認した。②・③では掘削を監督し平面図・土層断面図を作成し記録を行った。④・⑤では立会調査を行い観察・記録を行った。なお、⑤の工事実施中に学芸員が立ち会わない作業により遺構のき損が生じたため、工事を中断し、き損状況の把握を行った。国民共有の財産である特別史跡の一部をき損するという重大な事態を引き起こしたことを深く反省しお詫び申し上げるとともに、早急に再発防止策を講じる。



景石の撤去



柵の掘削状況

4 文献調査

当センターでは名古屋城の歴史にかかわる文献史料を網羅的に調査することを目標としているが、さしあたり築城期に関する一次史料の悉皆調査と石垣の修理履歴に関する史料調査、保存整備事業に関連する史料の調査を課題としている。

令和元年度（2019～20）は熊本大学附属図書館等で築城に関する一次史料を調査するとともに、保存整備事業との関連を想定して、整備事業が進められている名古屋城天守石垣の修理履歴調査、二之丸庭園についての史料調査を課題として調査を進めた。



名古屋市蓬左文庫での調査風景

築城期の史料については、熊本大学附属図書館が所蔵する松井文庫に含まれる新発見の史料などを調査した。また、東京大学史料編纂所において、同所が収集したデジタル画像を利用して関連資料を閲覧した。天守の修理履歴については、宝暦2～5年（1752～55）に行われた天守の大修理（宝暦大修理）に関する史料の検討を令和元年度の課題とした。宝暦大修理については、名古屋市鶴舞中央図書館・宮内庁宮内公文書館など各所蔵先に出張して史料調査を行った。あわせて、市内の個人が所蔵する関係資料を撮影し、デジタルデータを収集した。これらの調査を踏まえて、『名古屋城調査研究センター研究紀要』第1号に、宝暦大修理および史料の伝来過程に関する論考を掲載した。

二之丸庭園に関する史料としては、名古屋市蓬左文庫・徳川林政史研究所が所蔵する絵図及び文献史料に関する調査を行った。とくに徳川林政史研究所が所蔵する関係史料の撮影を依頼し、デジタルデータを入手した。

史料調査一覧

年月日	場所	調査者	目的
平成31年（2019） 4月4日（木）	名古屋市蓬左文庫	栗本規子 木村慎平 堀内亮介	画像データベースの事例調査
平成31年（2019） 4月9日（火）	名古屋市市政資料館	木村慎平 堀内亮介 武田純子	天守閣再建時の工事関係費の調査
令和元年（2019） 5月10日（金）	名古屋市蓬左文庫	栗本規子 木村慎平 堀内亮介 武田純子	名古屋城関係資料データベースに関する史料調査
令和元年（2019） 6月4日（火） 6月5日（水）	徳川林政史研究所	栗本規子 木村慎平 堀内亮介 武田純子	江戸後期の二之丸庭園及び天守に関する史料調査 明治期の愛知県庁文書に関する史料調査

年月日	場所	調査者	目的
令和元年（2019） 6月11日（火）	愛知県図書館	堀内亮介 武田純子	名古屋城二之丸の南蛮練堀に関する史料調査
令和元年（2019） 6月12日（水）	名古屋市蓬左文庫	栗本規子 木村慎平 堀内亮介 武田純子	名古屋城関係資料データベースに関する史料調査
令和元年（2019） 6月18日（火）	文化庁文化財第二課	服部英雄 栗本規子	特別史跡名古屋城跡の指定に関する文書の調査
令和元年（2019） 7月18日（木）	愛知県図書館	堀内亮介	公儀普請関係資料の調査および複写
令和元年（2019） 7月19日（金）	熊本大学附属図書館	服部英雄 栗本規子 木村慎平 堀内亮介 武田純子	名古屋城普請に関する新出史料の調査 江戸時代初期の公儀普請関係史料の調査
令和元年（2019） 7月20日（土）	熊本県立図書館	服部英雄 栗本規子 木村慎平 堀内亮介 武田純子	「石垣秘伝之書」の調査 熊本城に関する古絵図の調査
令和元年（2019） 7月20日（土）	熊本大学附属図書館 同永青文庫研究センター	服部英雄 栗本規子 木村慎平 堀内亮介 武田純子	名古屋城普請関係のシンポジウム聴講 今後の調査方針に関する打合せ
令和元年（2019） 7月30日（火）	愛知県図書館	堀内亮介	公儀普請に関する論文調査
令和元年（2019） 8月30日（金）	愛知県図書館	堀内亮介	石垣普請に関する論文調査 城絵図に関する論文調査
令和元年（2019） 10月29日（火）	名古屋市鶴舞中央図書館	栗本規子 木村慎平 堀内亮介 武田純子	宝暦大修理関係史料の調査
令和元年（2019） 11月6日（水）	徳川林政史研究所	栗本規子 木村慎平 堀内亮介	名古屋城総合事務所蔵史料の伝来過程に関する史料調査
令和元年（2019） 11月7日（木）	宮内庁宮内公文書館	栗本規子 木村慎平 堀内亮介	宝暦大修理関係史料の調査 名古屋城表二之門の修理履歴に関する調査
令和元年（2019） 11月29日（金）	愛知県図書館	堀内亮介	公儀普請に関する論文調査
令和元年（2019） 12月6日（金）	個人宅 名古屋市蓬左文庫	木村慎平 堀内亮介	宝暦大修理関係史料の調査

年月日	場所	調査者	目的
令和2年(2020) 1月10日(金)	愛知県図書館	栗本規子	大筒修練等に関する論文調査
令和2年(2020) 1月15日(水)	名古屋市蓬左文庫	木村慎平 堀内亮介	名古屋城関係資料データベースに関する史料調査および撮影
令和2年(2020) 1月24日(金)	名古屋市博物館	栗本規子	蓬左文庫本『金城温古録』の調査
令和2年(2020) 1月31日(金)	株式会社思文閣出版古書部	木村慎平	購入候補史料の調査
令和2年(2020) 1月31日(金)	愛知県図書館	栗本規子	名古屋城調査研究センター研究紀要に掲載する論考のための論文調査
令和2年(2020) 2月5日(水)	徳川林政史研究所	木村慎平 堀内亮介	複写収集のための史料内容および丁数調査
令和2年(2020) 2月6日(木)	東京大学史料編纂所	栗本規子 木村慎平 堀内亮介	靖國神社遊就館本「名古屋城御石垣絵図」の調査 多久家文書の調査 ガラス乾板に関する調査
令和2年(2020) 3月4日(水)	名古屋市蓬左文庫	栗本規子 木村慎平 堀内亮介	「御城図面」(二之丸御殿図)の調査

複写収集資料一覧

資料名	所蔵番号	点数
徳川林政史研究所所蔵資料(マイクロフィルムスキャンデータ)		
〔尾州日記寄〕	尾3-9	3点
〔尾州日記寄〕	尾3-10	2点
〔名地往復簿〕(部分)	尾4-18	1点
(家扶)日記〔尾州〕第四冊・第五冊	尾4-103	2点
小計		4件8点
名古屋市蓬左文庫所蔵資料(カラーデジタル撮影)		
張州雑誌	141-2	100点
小計		1件100点
個人所蔵資料(カラーデジタル撮影)		
御天守上見通絵図	—	1点
御天守五重目 御見通地名方角附録	—	1点
御天守五重目 御見通方角墨引	—	8点
御天守地割	—	5点
御天守御修復仕様 平之方見渡之図	—	1点
御天守御修復仕様 妻之方見渡之図	—	1点
御天守御石垣取毀方築方起シ指図	—	1点
御深井丸内諸御役人諸所御作事本所番所取建方指図	—	1点
小計		8件19点
合計		13件127点

5 デジタル化事業

(1) 名古屋城史跡等管理システム

名古屋城内の石垣・埋蔵文化財にかかる情報を適切に管理するため、発掘調査、石垣カルテ、その他現状変更に関する位置情報等をGIS（地理情報システム）上にて集約した「名古屋城史跡等管理システム」を開発した。

〈登録データ〉

①背景図

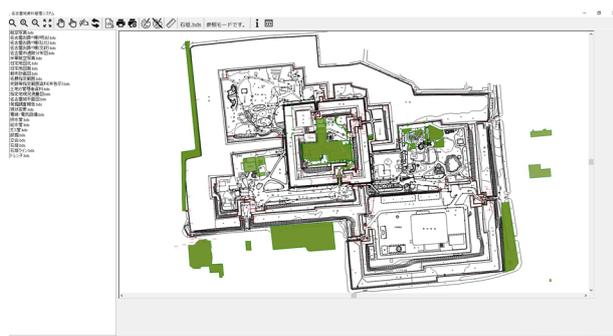
- ・名古屋城平面図（1/1000）
- ・都市計画図（1/2500）〔名古屋市住宅都市局提供〕
- ・平成27年度（2015～16）撮影航空写真〔名古屋市住宅都市局提供〕
- ・名古屋城指定地現況測量図〔名古屋市緑政土木局提供〕
- ・住宅地図（Z-map）（1/2500）
- ・城下町名古屋デジタル復元地図 ver.3（文政・弘化・明治）〔名古屋市博物館提供〕
- ・昭和23年（1948）米軍撮影航空写真

②位置データ

- ・名古屋城内の現状変更関係資料〔平成16年（2004）～令和元年（2019）：約100件〕
〔名古屋市教育委員会提供〕
- ・地下埋設管〔平成3年（1991）名古屋城給水管・排水管ガス管現況図等〕
- ・発掘調査〔平成3年（1991）～令和元年（2019）：報告書32冊分〕〔名古屋市教育委員会提供〕
- ・試掘、立会調査（全6件）
- ・石垣カルテ〔平成29年～31年（2017～19）：全273件〕

③その他

- ・特別史跡指定範囲
- ・名勝指定範囲
- ・周知の埋蔵文化財包蔵地範囲



史跡管理画面



石垣カルテ画面

- ・土地管理者情報

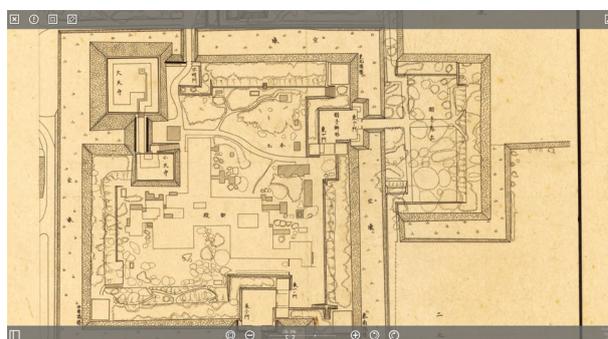
(2) 名古屋城関係資料データベース

調査研究の効率化をはかり、名古屋城に関する資料の高精細デジタル画像による閲覧を可能にするため、目録情報とともに資料画像を一元的に検索・閲覧できる「名古屋城関係資料データベース」を作成した。本データベースには、重要文化財日本丸御殿障壁画・昭和実測図・ガラス乾板写真など名古屋城総合事務所が所蔵する資料のほか、愛知県図書館・徳川美術館・徳川林政史研究所・名古屋市博物館・名古屋市蓬左文庫が所蔵する古絵図画像等を、各所蔵者のご許可を得て登録した。令和2年度(2020～21)以降も、引き続き画像データの作成・登録を進め、データベースの充実を図る予定である。

謝辞 本データベースの作成に当たり、画像の提供・利用についてご協力いただきましたご所蔵者の皆様に、深くお礼申し上げます。



メタデータ閲覧画面



資料画像閲覧画面

登録画像一覧

種類	提供	画像点数
古絵図	愛知県図書館	2点
	徳川美術館	15点
	徳川林政史研究所	10点
	名古屋市博物館	12点
	名古屋市蓬左文庫	1,702点
昭和実測図	名古屋城総合事務所	310点
その他図面	名古屋城総合事務所	86点
野帳	名古屋城総合事務所	277点
拓本	名古屋城総合事務所	561点
ガラス乾板写真	名古屋城総合事務所	737点
重要文化財本丸御殿障壁画	名古屋城総合事務所	1,080点
合計		4,792点

※ 複数の画像を登録した資料があるため、画像点数は資料の点数とは異なる。

Ⅱ 資料管理

1 所蔵資料・受託資料

(1) 所蔵資料の概要

名古屋城所蔵資料は、旧城郭でありかつ博物館相当施設の天守閣で展示を行ってきた〔耐震性の課題により平成30年(2018)から公開停止中〕。所蔵資料は伝来の経緯から、下記に大別される。

江戸期資料

名古屋城は、天守、本丸御殿、二之丸御殿などを含む広大な城郭であったが、大半が明治維新後破却され、残った建造物も一部を除き昭和20年(1945)の空襲で焼失した。しかし、本丸御殿を飾っていた襖絵類や建具類は空襲直前に御殿から取り外されたため焼失を免れ、現在は重要文化財に指定されている(日本丸御殿障壁画の詳細は後述)。また、襖引手、瓦などの金具類が、終戦直後焼け跡から拾い集められ、保管されている。

庭園内の茶室類は維新後売却されたが、余芳亭の建築部材は近年名古屋城に寄贈された。このように里帰りした資料も少なからず含まれる。

名古屋離宮期資料

明治26年(1893)から、天守や本丸御殿を含む名古屋城本丸一帯は名古屋離宮として宮内省によって管理された。昭和5年(1930)、名古屋離宮が名古屋市に下賜されると、椅子などの御料品や金城録などの文献資料もあわせて下賜され、明治大正期を語る貴重な資料となっている。

昭和戦前期名古屋城調査関係資料

名古屋離宮の下賜後、昭和5年(1930)に名古屋城は城郭建築として初の国宝に指定された。名古屋市は文化財保護のため城内の建造物の調査を開始し、実測図、拓本、ガラス乾板写真などを作成した。それら調査成果品は、本丸御殿障壁画とともに疎開され、戦時中の空襲による焼失を免れた。

戦後収集資料

昭和20年(1945)の空襲によって天守や本丸御殿など多くの建物が焼失したが、天守閣は昭和34年(1959)、鉄筋鉄骨コンクリートで再建され、障壁画や歴史展示を行なう博物館となった。そのため、尾張藩ゆかりの武具、文献、絵画を寄贈・寄託・購入により収集した。なかでも刀と刀装具からなる木子コレクション、染織品の山崎コレクションなどは、貴重な寄贈資料である。

〈主な資料〉

①国指定重要文化財日本丸御殿障壁画(331点、附16点)、天井板絵(331点、附369点)

計1,047点　ほか未指定日本丸御殿障壁画(2点)

慶長20年(1615)造営、寛永11年(1634)増築の本丸御殿内に描かれた障壁画群。本丸御殿は

昭和 20 年（1945）の空襲により焼失したが、事前の疎開により襖絵・障子腰貼付絵・杉戸絵・天井板絵は焼失を免れた。なお、壁貼付絵は本丸御殿と共に焼失した。

障壁画は慶長造営期・寛永増築期を通じて、狩野派の絵師によって描かれた。慶長造営期は当時の狩野家当主であった狩野貞信をはじめ、狩野甚之丞などが担当、寛永増築期は江戸幕府の御用絵師である狩野探幽、狩野奎之助などが担当した。

城郭御殿の障壁画が一括して保存されている事例は、二条城（京都市）と名古屋城の 2 例のみであり、全国的にも極めて貴重な資料群である。

文化財指定の経緯

指定年月日	内 容
昭和 17 年（1942）6 月 26 日	障壁画 345 面（附 16 面）が国宝保存法に基づく国宝（旧国宝）に指定
昭和 25 年（1950）8 月 29 日	文化財保護法施行に伴い、旧国宝のうち障壁画 199 面（附 16 面）が重要文化財に指定（旧国宝指定分のうち障壁画 146 面は戦災により焼失）
昭和 30 年（1955）6 月 22 日	障壁画 132 面が重要文化財に追加指定
昭和 31 年（1956）6 月 28 日	天井板絵 331 面（附 369 面）が重要文化財に指定

②ガラス乾板写真 738 枚

昭和 15～16 年（1940～41）に、旧国宝に指定されていた建造物 31 棟および本丸御殿障壁画を中心に撮影された写真。一部、戦後に撮影された写真や他のガラス乾板写真を転写した写真などを含む。

③昭和実測図 307 枚

昭和 7 年（1932）に旧国宝に指定されていた建造物 31 棟の詳細な実測図。昭和 7 年実測調査開始、昭和 17 年（1942）完了、第二次世界大戦による中断を経て、昭和 27 年（1952）に清書完了。屋根瓦や飾金具の拓本も含まれる。

④金城温古録 31 冊

奥村得義、定によって編纂された名古屋城の詳細な記録集。明治 26 年（1893）に名古屋城の本丸・西之丸などが陸軍省から宮内省に移管され、名古屋離宮となるが、名古屋城本はその際に第三師団司令部所蔵本（現靖國神社遊就館本）を転写し作成された。全 64 巻のうち、得義が尾張藩に献納した 31 巻分のみの写本となっている。

（2）令和元年度受贈資料

・銅瓦 1 件 2 点

昭和 20 年（1945）の戦災焼失時に採取された瓦（2 点）。1 点は軒丸瓦、1 点は鳥衾部の瓦と推測される。

(3) 受託資料

- ・受託者数 6件
- ・受託資料件数 447件

(4) 令和元年度受贈・購入図書

(単位：冊)

	報告書	図録	紀要	年報	資料集	リーフレット	一般書籍等	合計
受贈	58	68	38	35	17	42	38	296
購入	—	—	—	—	—	—	54	54
合計	58	68	38	35	17	42	92	350

2 資料の修理

名古屋城旧本丸御殿障壁画保存修理事業（文化庁補助事業）

昭和61年（1986）よりの継続事業。障壁画331面については平成17年度（2005～06）に根本修理（解体修理）を完了した。平成27年度（2015～16）より根本修理完了画面について点検修理を実施しており、並行して天井板絵331面（附369面）の根本修理を実施している。今年度は下記の画面を修理した。

今年度修理画面

①点検修理

作品名	場所	形状		画数
雪中柳鷺図	黒木書院一之間南入側北側	襖絵	紙本墨画	4面
山水図	黒木書院一之間南側	襖絵	紙本墨画	3面
竹林豹虎図	玄関一之間西側	襖絵	紙本金地着色	4面
竹林豹虎図	玄関二之間東側	襖絵	紙本金地着色	4面
合 計				15面

②根本修理

作品名	場所	形状		画数
山水図	上洛殿一之間	天井板絵	紙本墨画	1面
飛鷺図	上洛殿一之間	天井板絵	紙本墨画	1面
桐文図	上洛殿入側	天井板絵	紙本着色	27面
合 計				29面

3 資料の利用

(1) 資料貸出

貸出期間	貸出先	貸出目的	貸出資料
令和元年10月28日(月) ～令和2年1月17日(金)	名古屋市博物館	特別展「発掘された日本列島2019」・地域展「尾張の城と城下町」	擬宝珠・金鯰鱗片・瓦類・本丸御殿出土資料・二之丸庭園出土資料

(2) 写真貸出

86件271点(観光用写真を除く)

(3) 熟覧

熟覧日	熟覧者	熟覧目的	熟覧資料
令和元年6月7日(金) 令和元年9月27日(金) 令和元年12月13日(金) 令和2年1月24日(金)	名古屋城本丸御殿 復元模写共同体	名古屋城本丸御殿復元 模写作成の参考のため	重要文化財名古屋城旧本丸御殿障壁画・天井板絵 (令和元年度制作分の原本を中心に)
令和2年1月23日(木)	石川県立美術館 久留米市美術館	展覧会出品予定資料の 事前調査	鴨居玲作「天守閣の燃えた日」

Ⅲ 教育普及・展示事業

1 刊行物

(1) 名古屋城調査研究センター研究紀要 第1号

名古屋城調査研究センターにおける研究成果を公開するため、『名古屋城調査研究センター研究紀要』を創刊した〔令和2年(2020)3月発行〕。

〈目次〉

- ・服部英雄 名古屋城天守考・天守はなぜ高いのか
- ・木村慎平・堀内亮介・武田純子 〈史料紹介〉名古屋城天守宝暦大修理関係史料と「仕様之大法」
- ・近藤将人 名古屋城旧本丸御殿障壁画「雪中梅竹鳥図」の復元模写について
—樋口広芳「名古屋城本丸御殿の襖絵「雪中梅竹鳥図」の謎」に就いて—
- ・佐藤公保 〈資料紹介〉名古屋城二之丸庭園出土の実包について
- ・木村有作 名古屋城天守石垣の基本構造について —詳細調査の観察から予察へ—
- ・深谷 淳 宝暦大修理の石垣遣り形図にあらわされた石垣勾配に関する検討
- ・村木 誠 名古屋城石垣調査の現状と課題 —天守台周辺石垣調査を中心に—

(2) 名古屋城調査研究センターだより 第1号

名古屋城調査研究センターの活動を広く市民に周知するためのリーフレットとして、『名古屋城調査研究センターだより』を創刊した〔令和2年(2020)3月発行〕。

〈目次〉

- ・名古屋城調査研究センターの発足にあたって 服部英雄
- ・名古屋城石垣を知るために その1 木村有作
- ・〈文献史料担当より〉名古屋城の史料はどこにある？ 木村慎平

(3) 名勝名古屋城二之丸庭園発掘調査報告書(第4次～第6次)

[名古屋城調査研究報告1、埋蔵文化財調査報告1]

二之丸庭園の整備事業に伴う発掘調査〔平成28年度～30年度(2016～19)〕の報告書を刊行した(令和2年3月発行)。

北御庭は陸軍将校集会所の庭として補修や改修が行われながらも近世の庭園遺構が現在まで良好に残存していることが判明した。前庭では「御城御庭絵図」に描かれた文政期(1818～30)の庭園以前の遺構面と、庭園の改変が行われた文政期以降の近世の遺構面が確認された。

2 レファレンス

名古屋城調査研究センターでは、市民からの問い合わせのうち、特に名古屋城の文化財・歴史に係る内容について回答を行っている。令和元年度（2019～20）は合計で39件の問い合わせがあり、本丸石垣・二之丸庭園など、現在整備中の史跡についての質問が最も多かった。次いで、城内の主要建造物である天守・御殿・隅櫓についての質問が多かった。

内 容	件 数
記念物（特別史跡・名勝・天然記念物）に関すること（石垣、二之丸庭園など）	18 件
建造物に関すること（天守、本丸御殿など）	6 件
資料などの確認依頼	5 件
尾張藩に関すること	4 件
障壁画に関すること	2 件
その他	4 件
合計	39 件

3 現地説明会

(1) 搦手馬出石垣

実施日時 令和2年（2020）2月22日（土）9時30分～10時15分

参加人数 10名

名古屋城全体の石垣の概要説明及び搦手馬出周辺石垣解体修復工事の経過について説明を行った。参加者からの質問も多く、名古屋城の石垣に対する市民の注目度の高さがうかがえた。

なお、当初は午前と午後の2回行う予定であったが、天候不良により午前1回のみ実施となった。

(2) 二之丸庭園第7次発掘調査

実施日時 令和2年（2020）2月22日（土）10時45分～11時15分

参加人数 26名

第7次発掘調査で調査が行われた茶亭「風信」を中心に、発掘調査担当学芸員が調査成果等の説明を行い、参加者は調査区外から調査を実施したトレンチを見学した。

4 講師派遣

年月日	題目	主催者	場所	講師
令和元年（2019） 5月15日（水）	中区歴史散歩～古渡から大須周辺を中心に～	公益財団法人 名古屋 市教育スポーツ協会	中学生学習センター	木村有作
令和元年（2019） 10月26日（土）	やっとかめ文化祭2019 名古屋城の石垣細見めぐり	やっとかめ文化祭実行 委員会	名古屋城	木村有作
令和2年（2020） 2月13日（木）	名古屋の城下町・碁盤割の変遷	中学生学習センター	中学生学習センター	木村慎平

※ 当センター職員を職務の一環として派遣した案件のみ掲載。

5 展示事業

(1) 刀剣展 - 尾張に伝わる刀剣 -

概要 鎌倉～江戸時代にかけてのさまざまな産地、刀工、形態の刀剣と拵を展示した。

主催 日本美術刀剣保存協会名古屋支部、名古屋城総合事務所

展示期間	展示場所	展示資料	点数	来場者数 [※]
平成31年(2019) 4月20日(金)～ 令和元年(2019) 5月6日(月・休)	復元本丸御殿内 孔雀之間	刀 無銘 二字國俊 太刀 銘 助光 短刀 銘 則重 刀 無銘 青江 脇差 銘 吉貞 短刀 銘 筑州住貞國 刀 銘 伯耆守藤原信高 刀 銘 肥前住播磨守藤原忠國	8点	88,318人

※ 来場者数は会期中における本丸御殿の入場者数。

(2) 重要文化財旧本丸御殿障壁画の本丸御殿内展示

概要 旧本丸御殿障壁画を、復元された本丸御殿内に嵌め込み、往時の姿で展示した。

主催 名古屋城総合事務所

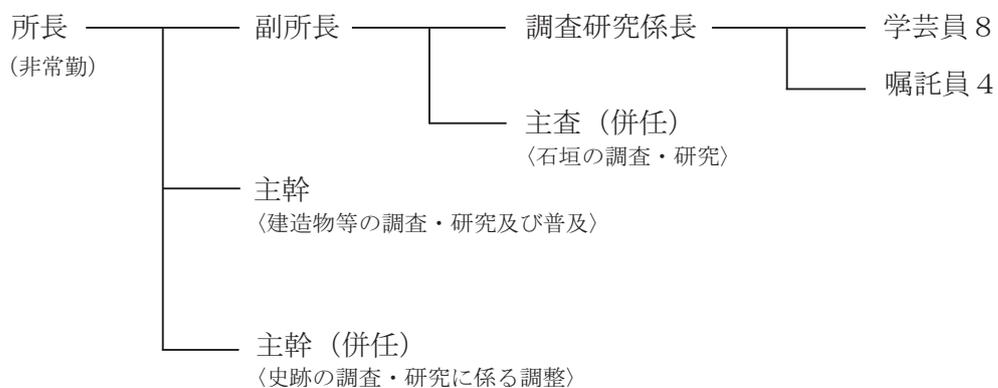
展示期間	展示場所	展示資料	面数	来場者数 [※]
令和元年(2019) 5月24日(金)～ 6月10日(月)	復元本丸御殿内 上御膳所御上段・ 上之間境	上御膳所御上段襖絵「花卉図」 上御膳所上之間襖絵「梅竹雀図」	4枚8面 (表裏)	79,156人
令和元年(2019) 11月1日(金)～ 11月18日(月)	復元本丸御殿内 表書院二之間・三 之間境	表書院二之間襖絵「槇楓椿図」 表書院三之間襖絵「麝香猫図」	4枚8面 (表裏)	85,508人

※ 来場者数は会期中における本丸御殿の入場者数。

IV 組織と職員

[令和2年(2020)3月31日現在]

1. 組織



2. 職員

所長 (非常勤)	服部 英雄
副所長	村木 誠
主幹 〈建造物等の調査・研究及び普及〉	栗本 規子
主幹 (併任) 〈史跡の調査・研究に係る調整〉	片岡 進矢 (～2.3.31)
主査 (併任) 〈石垣の調査・研究〉	深谷 淳
調査研究係長	若松 もえ (～2.3.31)
学芸員	小西 恒典 木村 慎平 近藤 将人 木村 有作 西本 茉由 花木 ゆき乃 堀内 亮介 二橋 慶太郎
調査研究事務嘱託員	佐藤 公保 武田 純子 (～2.3.31) 古田 成美 (～2.3.31)
学芸事務嘱託員	鶴見 沙耶伽

V 参考資料

1 令和元年度の名古屋城の活動

(1) 催事等

会 期	事 項
平成31年(2019)3月23日(土)～4月7日(日)	桜まつり
平成31年(2019)3月23日(土)～4月7日(日)	重要文化財「西北隅櫓」特別公開※
平成31年(2019)3月23日(土)～ 令和元年(2019)5月6日(月・休)	名古屋城春まつり
平成31年(2019)4月20日(土)～ 令和元年(2019)5月6日(月・休)	刀剣展－尾張に伝わる刀剣－
平成31年(2019)4月27日(土)～4月30日(火・祝)	茶席特別公開
平成31年(2019)4月27日(土)～ 令和元年(2019)5月6日(月・休)	重要文化財「西北隅櫓」特別公開
令和元年(2019)5月18日(土)～6月2日(日)	第68回 名古屋城さつき大会
令和元年(2019)5月24日(金)～6月10日(月)	重要文化財旧本丸御殿障壁画本丸御殿内展示 上御膳所御上段襖絵「花卉図」 上御膳所上之間襖絵「梅竹雀図」
令和元年(2019)8月9日(金)～8月18日(日)	名古屋城夏まつり
令和元年(2019)10月12日(土)～11月17日(日)	名古屋城秋まつり
令和元年(2019)10月27日(日)～11月23日(土・祝)	名古屋城菊花大会・名古屋城菊人形展
令和元年(2019)11月1日(金)～11月18日(月)	重要文化財旧本丸御殿障壁画本丸御殿内展示 表書院二之間襖絵「槇楓椿図」 表書院三之間襖絵「麝香猫図」
令和元年(2019)12月31日(火)～ 令和2年1月13日(月・祝)	名古屋城冬まつり
令和2年(2020)1月1日(水・祝)～1月16日(木)	重要文化財「東南隅櫓」「西南隅櫓」「西北隅櫓」 同時公開
令和2年(2020)2月22日(土)	石垣・二之丸庭園現地説明会
令和2年(2020)3月7日(土)～3月16日(月)	名古屋城つばき展

※ 重要文化財「西南隅櫓」は常時公開。

(2) 特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議

年	月 日	会議名称*
平成31年(2019)	4月25日(木)	第18回 天守閣部会
令和元年(2019)	5月28日(火)	第31回 石垣部会
	6月14日(金)	石垣部会 石垣検討会
	7月11日(木)	第19回 天守閣部会

年	月 日	会議名称*
令和元年（2019）	8月5日（月）	第32回 石垣部会
	8月28日（水）	第20回 天守閣部会
	10月17日（木）	第20回 庭園部会
	11月4日（月・休）	石垣部会 現場視察
	11月13日（水）	建造物部会 現場視察
	12月6日（金）	石垣部会 現場視察
	12月20日（金）	第21回 庭園部会
	12月26日（木）	第21回 天守閣部会
	12月27日（金）	第33回 石垣部会
令和2年（2020）	1月24日（金）・25日（土）	石垣部会 現場視察
	2月1日（土）	第29回 全体整備検討会議
	2月10日（月）	第22回 庭園部会
	3月8日（日）	石垣部会 現場視察
	3月20日（金・祝）	第34回 石垣部会
	3月25日（水）	石垣部会 現場視察
	3月31日（火）	第30回 全体整備検討会議

※ 各部会の正式名称には、部会名称の前に「特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議」が付されるが、煩雑になるため省略した。同様に全体整備検討会議についても「特別史跡名古屋城跡」を省略した。

2 名古屋城入場者数の推移

（単位：人）

月	平成29年度	平成30年度	令和元年度*
4	237,232	274,267	282,561 (147,842)
5	181,163	221,242	226,278 (134,526)
6	150,820	142,269	139,213 (111,996)
7	121,613	127,839	134,635 (108,517)
8	215,947	221,923	222,148 (134,832)
9	115,820	150,171	166,354 (116,789)
10	128,019	196,819	189,577 (118,772)
11	156,497	203,670	210,298 (131,809)
12	99,676	141,475	129,109 (84,350)
1	126,538	143,520	170,855 (101,728)
2	117,659	146,417	120,341 (80,447)
3	251,760	237,918	44,902 (0)
計	1,902,744	2,207,530	2,036,271 (1,271,608)

※ () 内は本丸御殿入場者数。令和2年2月29日以降、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため本丸御殿は入場休止。

名古屋城調査研究センター年報 1

令和元年度

2020年6月

発行 名古屋市観光文化交流局
名古屋城総合事務所
名古屋城調査研究センター
〒460-0031 名古屋市中区本丸1番1号
TEL (052) 231-2481